

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の学習成果と学位論文等審査基準の対応マップ

		卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の学習成果		
		1	2	3
学位論文審査基準	1	○	◎	◎
	2	○	◎	◎
	3	○	◎	◎
	4	○	◎	◎
	5	○	◎	◎
	6			

人文科学研究科フランス文学専攻博士前期課程の学位論文を評価するためのルーブリック

	尺度5 (S) (特に優秀な成績)	尺度4 (A) (優秀な成績)	尺度3 (B) (要求を満たす成績)	尺度2 (C) (合格と認められる最低の成績)	尺度1 (D) (不合格)
研究課題の明確性及び先行研究を踏まえて的確性	研究課題が極めて明確に設定されており、かつフランス語文献をはじめ国内外の先行研究を極めてよく理解し、極めて適切に参照、引用していること。	研究課題が十分明確に設定されており、かつフランス語文献をはじめ国内外の先行研究を十分に理解し、十分適切に参照、引用していること。	研究課題が明確に設定されており、かつフランス語文献をはじめ国内外の先行研究を理解し、適切に参照、引用していること。	研究課題が設定されており、かつフランス語文献をはじめ国内外の先行研究を理解し、参照、引用していること。	研究課題が明確に設定されておらず、フランス語文献をはじめ国内外の先行研究を理解しておらず、適切に参照、引用していない。
課題を追求する上で方法論の適切性	研究分野に関する専門的知識に基づき、研究課題に極めてよく対応した方法論が極めて適切に採用、実施されていること。	研究分野に関する専門的知識に基づき、研究課題に十分に対応した方法論がかなり適切に採用、実施されていること。	研究分野に関する専門的知識に基づき、研究課題に対応した方法論が適切に採用、実施されていること。	研究分野に関する専門的知識に基づき、研究課題にある程度対応した方法論が採用、実施されていること。	研究分野に関する専門的知識に基づき、研究課題にまったく対応していない方法論が適切に採用、実施されていない。
研究方法及び調査方法の妥当性	研究分野と研究課題に求められる研究方法および調査方法が極めて適切に採用され、フランス語文献をはじめ国内外の資料収集、読解、分析のプロセスが極めて妥当であること。	研究分野と研究課題に求められる研究方法および調査方法が十分適切に採用され、フランス語文献をはじめ国内外集、読解、分析のプロセスが十分に妥当であること。	研究分野と研究課題に求められる研究方法および調査方法が適切に採用され、フランス語文献をはじめ国内外の資料収集、読解、分析のプロセスが妥当であること。	研究分野と研究課題に求められる研究方法および調査方法が採用され、フランス語文献をはじめ国内外の資料収集、読解、分析のプロセスがある程度妥当であること。	研究分野と研究課題に求められる研究方法および調査方法が適切に採用されず、フランス語文献をはじめ国内外の資料収集、読解、分析のプロセスが妥当でない。
結論の妥当性	修士論文の構成、論述が極めて的確で、極めて説得力のある結論が極めて実証的かつ整合的に導き出されていること。	修士論文の構成、論述が十分に的確で、十分に説得力のある結論が十分に実証的かつ整合的に導き出されていること。	修士論文の構成、論述が的確で、説得力のある結論が実証的かつ整合的に導き出されていること。	修士論文の構成、論述が的確で、説得力のある結論が概ね実証的かつ整合的に導き出されていること。	修士論文の構成、論述が的確ではなく、結論には説得力がない。結論の導き方も実証的かつ整合的ではない。
研究の独創性と研究分野への貢献	研究の内容が先行研究との比較のうえ極めて独創的であり、研究分野の発展に大いに貢献しうることを。	研究の内容が先行研究との比較のうえ十分に独創的であり、研究分野の発展に十分に貢献しうることを。	研究の内容が先行研究との比較のうえ独創的であり、研究分野の発展に貢献しうることを。	研究の内容が先行研究との比較のうえある程度独創的で、研究分野の発展に多少は貢献しうることを。	研究の内容が先行研究との比較のうえ独創的ではなく、研究分野の発展に貢献することは期待できない。
その他					